

2020 年度前期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	日本文学専攻
専攻主任名	胡 秀敏
教務主任名	胡 秀敏

100 文字程度

今期の総評

講義内容、研究指導ともに高い評価を得ており、総合的な満足度も高い水準である。一方、他大学との単位互換制度の導入により、授業科目数を増やしたが、さらなる要望があるようで、学会などの参加頻度も依然として低い。

改善のための方策

各項目への満足度を維持するために努力を続け、とくに論文作成や研究指導に関しては、進捗状況に合わせた、より細やかな指導を行いたい。授業科目数増設への要望はカリキュラム編成方針に基づき、さらに検討を加え、オンラインによる学会への参加も促していきたい。

2020 年度前期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	英米文学専攻
専攻主任名	川畑 由美
教務主任名	金子 弥生

100 文字程度

今期の総評

前期はすべての科目でオンライン授業となったが、学生たちは積極的に授業に参加していた。各クラスが少人数ということもあり、特に問題なく実施することが出来た。

修論執筆中の学生にとって、入校および図書館利用に対する制限期間が長く続いたことには不便を感じていたようだった。

100 文字程度

改善のための方策

授業は教員・学生双方で工夫しながら大きな問題なく進めることが出来た。後期は状況に応じて、工夫を重ねていく必要がある。

論文執筆中の学生にとって、図書館の利用は不可欠であり、もし、登校できない状況が続くとしても、入場制限を伴う図書館の利用および必要図書の郵送など、便宜を図っていただきたいと強く感じた。

また、オンラインで開催されている学会への参加を促したい。

2020 年度前期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	言語教育・コミュニケーション専攻
専攻主任名	西川寿美
教務主任名	西川寿美

100 文字程度

今期の総評

評価は概ね良好である。コロナ禍で学期初めからオンライン授業を強いられたが、学生、授業担当教員とも前向きに取り組んだ結果であると考え。但し、学生個々の評価を見ると満足度には個人差が見られる。平均が 4 を下回る項目（授業数、教育環境・施設、学会参加）が固定化しつつあることに注目したい。

100 文字程度

改善のための方策

「学会参加」については、後期に 1 年生を中心に組織的に参加を呼び掛ける。「授業数」については既存閉講扱い科目に担当者を付ける形で来年度 3 科目の増設を予定しているが、今後定年者が続くことから一時的な増加になる可能性が高い。「将来の見通し」については、例年新生の 1 学期目は自己評価が低いと 2 学期目以降向上する傾向がみられる。「教育環境・施設」については、今年度院生から評価を得るのに適当な項目であるかどうか、後期アンケート実施の際に検討が必要かと考える。

2020 年度前期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	文学言語学専攻
専攻主任名	横山 紀子
教務主任名	鈴木 博雄

今期の総評
回答率（75%）が若干低かった。授業内容・科目数及び論文指導の適切性に関しては高評価を得ている。一方、研究指導の適切性及び大学院に対する総合的な満足度に対する評価が低かった。その原因として、コロナ禍による状況の変化が影響しているものと考えられる。

100 文字程度

改善のための方策
研究指導の適切性を高めるため、教員間及び教員・学生間の話し合いを通じ、コロナ禍に対応し得る方策を講じる。また、大学院に対する総合的な満足度を高めるために必要な研究環境の一層の充実を図る。

100 文字程度

2020 年度前期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活文化研究専攻
専攻主任名	小泉 玲子
教務主任名	野口 朋隆

100 文字程度

今期の総評

総合評価では満足度が高く、オンラインの制約の中で、指導教員と学生のコミュニケーション、信頼関係が保たれたことが伺えた。学生、指導教員の真摯な取り組みの成果と受け止めている。院生室やパソコン機器などの充実度については、ポイントが低く問題だと考えたが、利用の実績がないことから評価基準がなく低めのポイントになっていることが分かった。また、研究面では、学会等の参加が十分にできなかったことに危機感を持っていることも伺えた。

100 文字程度

改善のための方策

引き続き、充実した研究活動が行えるようサポートしてゆく。図書の不足については、長年の課題となっているため、各教員からもリクエストしてもらうよう働きかけて行きたい。院生同志、教員との対面での交流が難しい状況であり、研究発表の機会である例会もオンラインで実施することとなった。今までと異なる形とはなったが、オンライン化したことで参加者が増え、例会自体は活発化した。院生と教員間の信頼関係の構築・保持に留意しつつ、今までとは異なる交流の形も模索し、院生が安心して研究できる環境作りを心掛けて行きたい。

2020 年度前期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活科学研究専攻
専攻主任名	海老沢秀道
教務主任名	秋山久美子

100 文字程度

今期の総評

学生は概ね現状に満足しており、大きな課題は見当たらない。
 今後も、改善できる事項を見つけながら、一層の充実を図っていく。

100 文字程度

改善のための方策

- ・カリキュラム・授業については概ね満足している。一層の充実を目指して取り組みを続けてゆく。
- ・院生室と図書館の利用が進んでいない結果になっているが、これは研究室の機能が充実していることの裏返しと理解できる。研究を一層充実させるために研究室スペースの拡充が臨まれる。

2020 年度前期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	心理学専攻
専攻主任名	松野 隆則
教務主任名	松澤 正子

100 文字程度

今期の総評

本年度前期は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、すべての科目がオンラインで実施されたが、カリキュラムや授業内容への満足度は概ね良好で、研究指導も適切であると認識されていることがわかった。しかし、図書館や院生控室などの学内施設を十分に利用できなかったことから、教育環境や施設に対する評価は低いものとなり、また諸活動への参加も制限される結果となった。このように制約が多い状況ではあったが、ほとんどの院生が各自の研究を進展させることができたと回答しており、安心した。

100 文字程度

改善のための方策

後期はほとんどの科目が対面形式で実施されることとなり、学外・学内実習も再開している。院生控室も感染対策をした上での利用を開始した。また院生室 PC の一部が古くなりつつあるため、新しい PC への入れ替えも準備している。学習や研究のための環境は整えられるので、十分活用して学業に励んでほしい。

2020 年度前期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	福祉社会研究専攻
専攻主任名	高橋学
教務主任名	鶴田佳子

100 文字程度

今期の総評

院生自身の専門領域や研究テーマを深めていくためには、専攻の開講科目の選択肢が少ないようである。また、covid-19 の影響下大学への立ち入り禁止となり、図書館や院生室の利用、オンラインでの論文作成指導及び調査など多くの制限があり、例年より大学での研究環境に対する評価が低下したものとなっている。特に研究の進み具合に影響を与えているといえる。

100 文字程度

改善のための方策

With コロナの時代においてどのように大学院教育環境を使用するか、どのような研究指導方法を考案するのか領域ごとに検討する。

次年度以降 1 年制社会人コースが開講することから、オンライン教育と、対面教育など教育方法のみならず、院生室の使用、専門図書の増設など改善しなければならない案件である。

2020 年度前期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	環境デザイン研究専攻
専攻主任名	金子友美
教務主任名	森部康司

100 文字程度

今期の総評

コロナ禍の中オンライン対応を余儀なくされた学期ではあったが、カリキュラムや授業については満足度の高い評価を得ることができた。その一方実質使用できなかった教育環境や設備に対しては当然低い評価であった。

100 文字程度

改善のための方策

本専攻には講義科目と演習科目があり、後者はコロナ禍の授業運営として難しい側面をもつ。今後の対応として安全を確保しながらの対面指導、院生室の利用を促していきたい。

2020 年度前期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	人間教育学専攻
専攻主任名	石井 正子
教務主任名	中村 徳子

100 文字程度

今期の総評

総じて高評価を得たと思われる。Zoom によるオンライン授業になったものの、その満足度は高く、それぞれの研究活動をしっかりと遂行していたといえる。ただコロナ禍によって在宅を強いられたため図書館の利用や院生室の活用については当然ながら評価が低かった。また院生同士のつながりがなかなかもてなかった点については、お互いの研究内容を深めるためにも今後改善する必要がある。

100 文字程度

改善のための方策

開設科目の要望に応えるべくカリキュラムの充実を図りたい。また後期は可能な範囲で対面授業を設け、図書館や院生室の活用を可能にし、院生同士のつながりも促していきたい。そのほか学会等の参加も、今年度は難しいが、状況をみて機会を増やしていきたい。なおオンラインによる研究会や学会等の参加は積極的に促していく。

2020 年度前期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活機構学専攻
専攻主任名	中山 榮子
教務主任名	今城 周造

100 文字程度

今期の総評
回答率が低かったが、総合的に高い評価をいただいた。本専攻の個別研究指導がうまくいっていることの表れと受け止めている。

100 文字程度

改善のための方策
回答率を上げるために、院生への周知を徹底したい。